

第27回清瀬市みどりの環境保全審議会（要旨）

〔日 時〕 平成30年7月3日（火） 10:00～16:00

〔場 所〕 現地視察、清瀬市健康センター 第1会議室

〔出席者〕 委 員 7名（欠席1名）
事務局 3名 水と緑の環境課

〔議事次第〕

1. 現地視察
2. 視察総括
3. その他

〔配布資料〕

次第、現地視察資料（視察先一覧、第1回視察先の図面など）

《1. 現地視察（公共施設のみどりの管理方針）》

みどりに関する課題の多い公共施設や、色々な施設と共通する課題を持っている公共施設について、庁内検討会の意見をもとに事務局で選定し、全3回の視察の初回。

《2. 視察総括》

竹丘下里児童遊園

- ・コナラ6本は、境界から離れている1本以外は伐採してよい。繰り返し強剪定されて、樹形も崩れている。サクラも境界に近く、剪定によってかなり傷んでいる
- ・残すコナラについては、レンガで囲うなど、踏圧から根を保護する
- ・列植よりも、固まり（ブロック）の植栽帯をつくったほうが、管理作業しやすい
- ・境界付近は、必要があれば低木でよい
- ・高木伐採後は、ごみ置き場との境や、出入口の脇にキン（ギン）モクセイを植える

竹丘なかよし公園

【全体について】

- ・木の本数が多いので、どの木を残すかを考えながら、重なっている枝は抜く
- ・カスミザクラ、アカマツ、クヌギはシンボルにして、競合するムクノキは伐採
- ・道路側にキンモクセイが2本あり、枝を透かして見通しを良くすれば、明るくなる
- ・鬱蒼とした印象があり、枝の管理が必要。不要樹木も3本ほどあり、その伐採も

【真ん中のシラカシについて】

- ・シンボルツリーのシラカシの植え方が悪く、枯れ始めているので、改善が必要

- ・シラカシがパイプを巻き込み、椅子で囲われ、根の部分が高いため、根張りも弱く水を吸い上げられていない。上は大きくなっているのに、水が行き届いていない
- ・パイプを外して、周りのベンチを取り払って、土盛りをして、根の上もしっかり被るようにして、根が乾かないようにしないと改善しない

【日常管理について】

- ・普段から少しでも枝を詰めておけば、大きく手を入れなくてもよくなる。団地内なので管理組合があると思うが、市と協働で手入れしてもらえないか
- ・一度、市できれいに剪定して整理してからでないと、素人には手につけられない
- ・団地は高齢者が多く、管理作業は難しい。実際、3公園ほど住民による管理を試したが、続かなかった（高齢者でないとできないこともある、という意見もあり）
- ・「自分たちの庭」という意識ができれば良いが、時間がかかる。公園の所有者として、責任をもってまずは市が動いて、住民がどれだけ協力してくれるようになるか

竹丘彩り公園

- ・四方住宅に囲われている中、あれだけ常緑を鬱蒼と生やす必要はない。落葉樹主体の明るい公園が良い。シラカシ中心に、シマトネリコも様子を見ながら抜いていけば、既存の中低木にも日が当たって育つ。越境もなくなる。衰弱木の管理は必要
- ・珍しい木が多くあった。シマサルスベリ、クロガネモチなど

竹丘公園

- ・アカマツ、ヤマザクラなど武蔵野の林にふさわしい樹木を残すために、弱っているイヌシデ、支障になるクヌギを伐採して、競合関係を減らす
- ・公園内に大きな木が十分あり、道路際の木は外に傾いて生長してしまう。周りはサツキなどの低木でよい（そのため、道路際の高木は選択的伐採）

第一保育園

- ・アカマツの中でも傾きが大きかったり、ヒビが入って腐り始めているものがあるので、特に顕著な2本は伐採してよい
- ・枯れたサクラと、枯れ始めのサクラは伐採し、枯れたサクラの横のエノキも伐採
- ・園長は、「伐採後は、花が綺麗で香りも良いキンモクセイを植えたい」という意向

中央公園

【公園全体】

- ・アカマツ、サクラ、コナラが公園の中で大事なので、これを中心に、支障となる木や危険な木は除いていく。残していきたい木は、養生する必要がある
- ・自然に生えてきた木と、公園完成前からある弱った木が多いので、1回チェックし、整理を考えなくてはならない。利用者に危険のある木は排除しなくてはならない
- ・自由に歩けるようになっているが、通り抜ける人もいたので通路を作ってはどうか

【テニスコートの横にある6本のヒマラヤスギ】

- ① 全部切ってよい
- ② シンボルとして両端の2本だけ残しておく
- ③ 1本おきに間引く の3通りが提案された。いずれにしても、重要性の低い樹木6本をそのまま残して管理するのは費用対効果も低いことから、
 - ・胴切りや強剪定するなら、伐採して樹種変換したほうが、長期的な視点ではよい
 - ・残しても定期的に手を加える管理経費がないのなら、伐採する決断も必要
 - ・ヒマラヤスギがもつ住宅への防音効果をもたせるため、高さ4、5mの常緑樹を列植
 - ・電線にも枝が接触しているので、いずれにしても問題になる

野塩地域市民センター

【サクラを全部伐採してもよいという意見】

- ・境界沿いのソメイヨシノは、駐車場とアパートや道路にはさまれた狭い範囲にあり、繰り返し強剪定されて樹形も崩れているため、何のためにあるのか分からない
- ・考えなくてはならないのは樹形管理。電柱に枝をくっつけたようなのは木ではない
- ・毎年毎年、金をかけながら、弱っている木をずっと管理していくというのも大変。サクラの小型種に替える、または今あるサザンカや、ツツジなどの中低木を育てていってもよい。サザンカにこだわる必要はなく、キンモクセイなどもよい
- ・市としては養蜂事業（きよはち）もあるので、花の咲く木が良い
- ・（ヤマボウシという意見に対して、）大きくなる樹種は、スペースがないので、せいぜい高さ5m。樹種の選択と植える場所を十分考えていく必要がある
- ・今のままだがサクラが可哀相。根はアスファルトや塀のほうに伸ばせないし、寿命で傷みも進んでいる。「毎年咲いているのに、なんで切る」は、少し見方が狭い
- ・下がアスファルトで、周りも建物ばかりで、花見をする雰囲気ではない
- ・伐採するなら、理由を明示した方がよい

【一部のサクラは残した方がよいという意見】

- ・花見の時期だけは賑わうので、切ると苦情にはなるので、配慮が必要
- ・一気に全部切ってしまっていていいかどうか。剪定して、少しは残しながらでも良いのでは。センターの裏側は、電線や建物に接しているので全部伐採でよい
- ・残すのであれば、正面のサクラのうち、樹形のしっかりした花を咲かせる枝を残した元気なもの
- ・日本人は、サクラをバサバサ切るのとは芳しくないと感じる。そのさじ加減はここで議論できるものではなく、その場その場の判断が必要

【その他の意見】

- ・告示して、一般の意見を聴いたり、公開討論会のようなものを作ってはどうか
- ・こんなところにサクラを植えてよいか、植えるときにしっかりと考えるべきだ

清瀬中学校

【南側の高木】（イチョウ、ヒマラヤスギなど、3年程前に落葉・日影のため強剪定）

- ・ニセアカシア、アオギリが健全に生長しておらず、越境方向に傾いているため不要
- ・サクラは残す。イチョウは樹形が崩れづらいので剪定しながら残して、ヒマラヤスギはほとんど不要
- ・ヒマラヤスギが6本程あるうち、3本は境界に近いが、奥の3本は境界から離れている。上は詰めてあるので、もう少し枝をつめていければ残せる。学校くらいしか、ああいった木は残せないなので、全部切らなくてもよいのでは
- ・校舎の日影の課題があり、手前側のヒマラヤスギは、直接日影に関係はなさそうなので、それを残すかどうか

【北側の高木】（道路拡幅に伴って、境界沿いの高木の対応が必要）

- ・基本的に、道路拡幅にかかるものは大きくなりすぎていて移植もできず、仕方ない
- ・長期的に考えても、古木なので、若木を植えた方がよい
- ・今の状態でも砂埃がひどく、まして高木を伐採すると、北側には住宅への防砂林のような目的で樹木の列植が必要。通用門の近くのキンモクセイの列植を参考に
- ・テニスコート脇の立派なソメイヨシノは大事に育てていくべき

会 長 管理に関しては、一人ひとりの感覚に違いがあるので難しいが、大多数の委員の意見は、大多数の市民の意見に対応する。事務局には、この委員会で大筋合意がとれたものを纏めてもらい、「管理方針」に埋め込むことを求める。

公園はとにかく管理されていない、1回整備してそのまま、という感想。植えられている木も、大きくなるということが意識されないで植えられている。樹種の選定にしても、「ここはどういう機能を樹木に期待しているのか」が曖昧で、例えば、中央公園と児童遊園では全然樹木の意味合いが違う。そういうわけで、機能を考えて分けた整備をしていかななくてはならない。そうなれば、当然のことながら、まず1つは危険木をどうするか。2つ目は、「ない方がいいのでは」という不要木のチェック。3つ目は衰弱木、弱っている木をどうするか、それを早く見つけてケア。4つ目は、今は弱っているようには見えないが、伸びすぎている枝の管理。以上の4つを軸に、それぞれの場所で「期待する機能」の観点から、考えなくてはならない。

《3. その他》

次回日程（視察）：8月1日（水）

以上